事　業　報　告　書

平成３１年４月１日から令和２年３月３１日まで

公益財団法人　札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第２章第３条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第２章第４条に掲げる事業を次のように行った。
平成３１年度のオーケストラによる公演

（１）札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

１．評議員、役員等及び事務局
評議員１９名、理事２０名、監事２名、事務局員１４名

２．交響楽団の編成
首席指揮者、名誉音楽監督、友情客演指揮者、指揮者　各１名、楽団員７５名
（２０２０年３月末日現在）
ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー　計５名

３．首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者、指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

首席指揮者　マティアス・バーメルト	出演回数１１回、練習日数１２日
名誉音楽監督　尾高忠明	出演回数　６回、練習日数　６日
友情客演指揮者　広上淳一	出演回数　６回、練習日数　８日
指揮者　松本宗利音	出演回数１６回、練習日数　７日

交響楽団としての出演回数は合計１１３回、練習日数１０７日
この他小編成による教育や福祉関係の活動５３回
なお交響楽団として移動日等も含めての稼働日数は２２４日

（２）交響管弦楽の演奏を行うこと。

１．自主公演　計３６公演

【定期演奏会】
平成３１年４月から令和２年２月までに１プログラムにつき２回ずつの公演を実施、計１８公演実施した。令和２年３月の１プログラム２公演は新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を中止した。
定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。バーメルトが３回計６公演、尾高が１回計２公演、広上が１回２公演を指揮した。

【名曲シリーズ】

名曲シリーズは平成３１年４月から令和２年２月までに５公演実施した。

【特別演奏会】

札幌市内で７公演、北海道内地方で５公演、道外では東京で１公演、計１３公演実施した。

〇札幌市内公演

１．　札響シンフォニック・ブラス　５月１２日

２．３　札響ポップス・コンサート Vol.16（２公演）　７月１７日

４．５　札響夏休みスペシャル「0 歳からのパントマイム☆オーケストラ <オケパンⅣ>」（２公演）　８月１０日

６．７　札響の第９（２公演）　１２月１４日、１５日

札響の第９は楽団として初めて札幌文化芸術劇場 hitaru での開催であった。

なお、３月２５日に開催を予定していた札響ふきのとうホール演奏会は新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。

〇北海道内地方公演

札幌交響楽団は札幌市外、北海道内各地に優れた演奏を届けることが重大な使命であると考え、平成３１年度は自主・依頼公演、音楽教室合わせ道内２９公演を実施。

北海道内地方公演－自主公演分

１．　南富良野公演　７月１１日

２．　当麻公演　７月２７日

３．　厚真公演　９月１５日

４．　清水公演　１１月２７日

５．　小樽公演　1月１３日

３月２１日の砂川公演、同月２２日の苫小牧公演は新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。

〇東京公演　２月７日

バーメルトの指揮でベートーヴェン「交響曲第７番」、マーラー「亡き子をしのぶ歌」（ディートリヒ・ヘンシェル：バリトン）ほかを演奏、好評を博した。

２．依頼公演

各種団体、企業、自治体などが主催する演奏会に依頼に応じて出演。（計４９回）

〇札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１回

〇北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８回

北海道新聞社、北洋銀行、北海道銀行、北海道電力、札幌市芸術文化財団（キタラ）、北海道公立学校教職員互助会、道新文化事業社をはじめ多くの企業、自治体の支援を受けて開催。

２月２８日から３月末日まで予定されていた６公演が新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。

（３）青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室を次のとおり開催。（計２８回）

〇札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２回

〇北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６回

〇北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０回

北海道外公演は、文化庁からの依頼により福島県、山形県、栃木県、埼玉県での公演を行った。

楽団員によるワークショップ（体験型音楽教室）や楽器講習会では、学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加する感動も広めることができた。（計２２回）

〇ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７回

〇楽器講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５回

（４）その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

１）広報宣伝

〇プログラムの発行

定期演奏会はじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による研究論文、楽曲解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

〇ニュースレターの発行

札幌交響楽団の活動報告、公演案内など、最新情報を掲載したニュースレターを年に４回発行。

〇ホームページによる広報

札幌交響楽団の最新情報を掲載し、チケット販売の促進をするほか、定期会員・パトロネージュ会員の入会案内を行った。また、フェイスブック、ツイッターを用いて随時リハーサル風景、演奏会情報を告知した。

〇札幌交響楽団ものがたり－躍進の時代

９月２０日（金）から１２月２５日（水）まで、Kitara ギャラリーにて、岩城、秋山時代の札響の歩みをパネル写真や資料で紹介した。

２）その他の公演事業

〇アンサンブル（２１回）

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏することによって、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札響の存在をアピールした。新型コロナウイルス感染予防のため４公演は中止となった。

〇慰問演奏（１０回）

特別支援学校、老人ホーム、障害者施設などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行なった。新型コロナウイルス感染予防のため２公演が中止となった。

３）記録の整理と活用（周年特別会計）

〇記録資料

定期演奏会などのデジタル録音を継続して行った。

札幌交響楽団
2019年度活動報告

令和2年5月7日作成

公益財団法人 札幌交響楽団
札幌市中央区中島公園1-15
札幌コンサートホール内
https://www.sso.or.jp

札幌交響楽団の活動

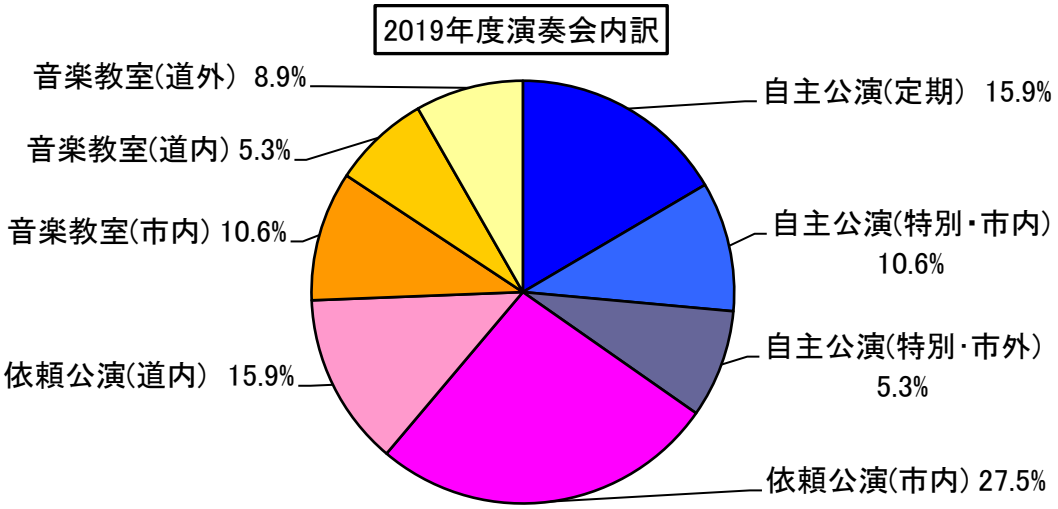
オーケストラ演奏会　計113公演　※中止11公演

■自主公演(36公演)

定期演奏会(札幌市内)	18公演	※中止2公演
札幌市内	12公演	
北海道内	5公演	※中止3公演
北海道外	1公演	

■依頼公演(49公演)　※2～3月に中止6公演

■音楽教室(28公演)



教育・地域活動、アンサンブル演奏　計 53公演

総計166公演

自主公演 札響が主催した演奏会です。

■ 定期演奏会　年18公演

※3月第627回（2公演）　中止

■ 札幌市内公演　年12公演

札響名曲シリーズ（5公演）
札響シンフォニック・ブラス
アキラさんの大発見コンサート（2公演）
札響ポップスコンサートvol.17（2公演）
札響の第9 inhitaru（2公演）

※ふきのとうホール演奏会　中止

■ 北海道内公演　年5公演

当麻公演
厚真公演（北海道胆振東部地震被災地復興支援）
清水公演
中富良野公演（萬田記念財団 協賛公演）
札響ニューイヤーコンサートin小樽

※苫小牧公演　中止
※砂川公演　中止

■ 北海道外公演　年1公演

東京公演2020（東京・サントリーホール）

M.バーメルトは定期演奏会に2019年度のテーマを設定し、継続して聴いていただく楽しさを積極的に提案しました。

年末恒例の「札響の第9」は、札響の主催演奏会としては初めてhitaruを会場に開催し、大きな注目を集めました。

9月の厚真公演は、1年前の2018年発生した北海道胆振東部地震の被災地復興支援事業として開催しました。

依頼公演

企業、自治体などの依頼で演奏会を提供しました。

■ 札幌市内公演

全31公演

Kitara主催（3公演）、ほくでん、道銀、北洋、札幌友の会、ロジネットジャパン、さぽーとさっぽろ、HBA、北海道信用金庫、999人の第九、日本演奏連盟、タナカメディカルグループ、あいプラン、玉置浩二シンフォニックコンサート（2公演）が継続して、また、前年に復活したPMF主催公演への出演が2公演となりました。

前年に開館した札幌文化芸術劇場hitaruでは、劇場主催によるオペラとバレエが各2公演の4公演開催されたほか、劇場の特性を活かした映像つき公演が2公演開催されました。

また、2019年度は、ピアニスト3名（横山幸雄、辻井伸行、フジコ・ヘミング）の特別演奏会4公演が開催され、2～3月にかけて5公演の中止があったにもかかわらずほぼ前年並みの公演数となりました。

hitaruの大型スクリーンに映し出された「ゴジラ」の映画にあわせて伊福部昭の作品を演奏し、注目を集めました。

札幌芸術の森野外ステージで開催のPMFピクニックコンサートへの出演が、この年度唯一の野外演奏会となりました。

■ 道内各地の公演

全18公演

北海道新聞社との共催　8公演
（江別、稚内、帯広、旭川、釧路、岩見沢、北広島、千歳、※栗山公演は中止）
ほくでんファミリーコンサート　4公演
（中頓別、鹿部、伊達、羅臼）
北海道公立学校教職員互助会公演　2公演
（湧別、黒松内）
北洋銀行コンサート（小樽）
クロネコヤマト音楽宅急便（千歳）
また、函館市、北斗市で2つの企業による公演が新た開催されました。

函館市芸術ホールを会場に函館の企業主催による演奏会に出演。同演奏会は、2020年にも継続開催予定に。
※2021年に延期が決定。

音楽教室

青少年向けに音楽の楽しさを伝えました。

■ Kitaraファーストコンサート

2004年から続く「Kitaraファーストコンサート」は、札幌市・札幌コンサートホールの主催により札幌市内の全小学6年生を対象とした9公演と、札幌広域圏8市町村の小学生を対象とした2公演とをあわせ、計11公演を開催しました。指揮は、首席指揮者のマティアス・バーメルトと札響指揮者の松本宗利音が担当しました。

↑ 札響指揮者松本宗利音はKitaraファーストコンサートなどを指揮し、札響による音楽普及活動の担い手となっています。

■ ジュニアクラシック

北海道新聞社などの助成を受けて、道内各地で開催のジュニアクラシックコンサートを旭川、登別、恵庭、苫小牧、小樽、音更において実施しました。いずれも継続開催で、新規開催はありませんでした。
Kitaraを会場としたジュニアクラシックコンサートの開催は、札幌市内の高等学校 からの依頼で1公演を実施しました。

■ 文化庁主催・文化芸術による子供の育成事業(巡回公演)

前年度に引き続き、文化庁主催による小中学校への巡回公演として、福島県、山形県栃木県、埼玉県内の計10校を訪問しました。

オーケストラ公演の約1か月前には、楽団員数名が学校を訪問し、子供たちと交流するとともに、事前学習によりオーケストラへの興味の喚起や理解の促進を図りました。

← 事前訪問の終わりに子供たちとハイタッチ。

教育・地域活動、アンサンブル演奏会

小学校を訪れる音楽創造体験プログラム、吹奏楽部の楽器指導など、子供達を対象とした音楽教室を22回開催しました。

オーケストラ演奏会で道内各地を訪れる機会等にあわせ、アンサンブルが北海道全域の病院・高齢者施設10か所を訪問し、ミニコンサートをお届けしました。

駅や公共施設、高齢者や地域住民の集会所など、少人数で身近に音楽を届けるアンサンブル活動は、21回を数えました。

リハーサル公開と出演者のトークを合わせた練習見学会イベントの実施、札響ボランティアピリッキーとの協力による青少年向けミニレクチャー付き演奏会招待など、音楽普及活動に取り組みました。

別れ、公演中止～喪失の2019年度とオーケストラのこれから

● 9月　札響名誉指揮者R.エリシュカの逝去
11月　コンサートマスター大平まゆみの退団

↑ 終演で握手をするR.エリシュカ(右)とコンサートマスター大平まゆみ(2017年6月の定期演奏会より)

2019年度は、札幌交響楽団にとって大きな存在だった素晴らしい指揮者、演奏者を失いました。

9月に故国チェコで逝去した札響名誉指揮者ラドミル・エリシュカは、健康上の理由から2017年10月の札響定期演奏会を最後の来日公演とした後も継続して札響と札響ファンの精神的支えとなっていました。
難病のため11月末に突然の退団となった大平まゆみは、通算21年と7か月の長きにわたりコンサートマスターを務め、演奏会の際に限らず常に札響の顔として札響とファンをつないできた存在でした。

さらに、5月にはホルン首席奏者を長年務めてきた橋本敦が逝去しました。また、2019年度末をもってフルート首席奏者髙橋聖純が退団しました。

● 2～3月　新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2月22日の名曲シリーズ演奏会を最後に、3月の定期演奏会、3回を予定していた道内での主催演奏会を含め、3月末までに11公演が中止となりました。また、高齢者向け施設への訪問など6回のアウトリーチ活動が実施できませんでした。

● オーケストラのこれから

・演奏活動が再開できないまま2019年度が終わろうとする中、3月には小編成によるアンサンブル演奏や管打楽器の楽器別ワンポイントアドバイスの無料映像配信を始めました。また、オンライン決済により寄附やクラウドファンディングなど幅広く支援を受けることができる方策を2020年度早々にスタートできるよう、準備調整に着手しました。

・2020年度にマティアス・バーメルトの契約最終年を迎えるにあたり、バーメルトとの契約を2024年度まで延長しました。

2021年の創立60周年を前に、オーケストラの存続のために、演奏会のあり方、オーケストラの存在意義について充分に考え、様々な対応策に取り組んでまいります。